

MITSUBISHI

気流Express

気流エクスプレスは、気流応用商品のさまざまな納入事例とご採用のポイントをご紹介します。“気流”の専門(Expert)誌(Press)です。

vol.2

ナゴヤドーム様
エアーシングファン 6台



2005年 愛知万博の開催などを控え、今活気に満ちあふれている街、名古屋。

ここ『ナゴヤドーム』はそんな名古屋のシンボリック存在でもある、中日ドラゴンズの本拠地です。

オープン以来、試合の度に多くの方が訪れ40,500人収容の場内は常に熱気で溢れています。

そして、熱狂的なファンを満足させるすばらしいプレーも、選手たちにとって快適な環境があればこそ。

三菱電機(株)中津川製作所では、ダッグアウトの涼風ファンとして**エアーシングファン 6台**を納入。

試合中の選手たちに心地よい風を送っています。



試合中の選手達により快適な環境を。



ここが
ポイント
施主様に
伺いました!

株式会社ナゴヤドーム 常務取締役 施設担当 **小松英弘様**

風の流れを活かして、ダッグアウトを快適に。

デザインと効果の両立を狙いました。

このナゴヤドームでは全体を約26℃に維持していますから、空間としての快適性は十分に保っています。でも、白熱した試合中の選手にとっては、体感温度を周囲の温度より下げてこそ、涼しいと実感させることができるんですね。ですから、「風」をあてることで快適さが随分違ってきます。



エアーシングファン

じゃあ、扇風機でいいかという、デザイン的にはそれは許せなかった。テレビ中継などでダッグアウトが映ったとき、その中で扇風機が回っている絵はあまり誉められたもんじゃないですよ。

通勤電車で見つけたヒント。
ラインデリアがドームに活かせる。

そうしたとき毎日の通勤で使う電車内の、風の流れに気づいたんです。あの両側に風を送るファン。ラインデリアっていうんですか、あれをダッグアウトに設置できないものだろうか。天井の高さや幅などに違いはありますが、ベンチタイプの座席や、立っている人も座っている人もいるといった状況はダッグアウトにも共通するところが多いですから。デザインの的にもとてもコンパクトですし、これなら、と。

狙った通りの効果があがってますよ。

それで鉄道会社に連絡を取ったところ、最終的に三菱電機さんのエアーシングファンに辿り着いたわけです。施工も簡単に行えましたし、設置後の選手たちの評判も上々で、狙った通りの効果はあがってますよ。これなら他の球場のダッグアウトにもお勧めできるのではないのでしょうか。

各ダッグアウトに3台ずつの
エアーシングファンを設置。

ドームという大空間では空調が果たす役割はとも重要。観客はもちろん、実際にプレーする選手にとっても快適な空間であることは、よりレベルの高いプレーを見せるための大きなポイントとなります。

なかでも選手たちが控えているダッグアウトは、守備や打撃を終えて戻ってきた選手にとって、つかの間の休息の場。ナゴヤドームの常務取締役で、一級建築士の小松英弘さんは「**選手に風を与えることで体感温度を下げる効果を狙った**」と、ダッグアウトの快適性向上というテーマに取り組んだ経緯を話します。



エアーシングファン

1塁側ダッグアウト

ナゴヤドームのダッグアウトのスペースは幅約12m、奥行約3m。ここにベンチが2列に並んでいます。試合中の選手たちに風を与えることで体感温度を下げたいという小松さんのリクエストに応えたのは、1塁側、3塁側それぞれのダッグアウトに**3台ずつ設置されたエアーシングファン**でした。

ご採用の
ポイント

- スイング気流による**涼風効果**
- 周囲の環境にマッチする**コンパクトさとデザイン性**

選手の活躍を支える快適環境。 エースイングファンの効果は期待通り。

「扇風機はデザインの使いたくなかった」という小松さんがエースイングファンに注目したのは、その見た目のコンパクトさと、1台で幅広いエリアをカバーできる送風性能でした。

静かな作動音で、
ベンチの奥まで快適に。

ダッグアウトの中では選手がそれぞれ、お決まりの場所に座ることが多いとのこと。奥に座る選手にまで心地よい風が届くようにと、ダッグアウト内天井のほぼ中心部に横一列に、3台のエースイングファンが設置されています。「特にマウンドを降りてきたピッチャーはいちばん汗をかくため、ベンチに戻ったときは涼しく感じてほしかった」と小松さんは言います。

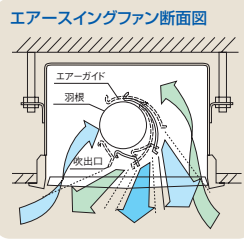


リモコンスイッチ FS-02ASR

運転モードは、通常は最大ノッチで首振り運転させていますが、1台ずつリモコンが取付けられているので、選手自身が操作することも可能。皆さん状況に応じていろいろ操作されているそうです。

三菱の“気流”技術で
もっと快適に、もっと面白く。

さらに、ダッグアウトは監督やコーチが戦況を見ながら作戦を考えたり、出番を待つ選手が精神統一を図る場所でもあります。ですから設備から出る音も重要な要素となります。小松さんは「エースイングファンの作動音は静かだし、気になることはない」と、エースイングファンの低騒音さを高く評価。電車内の車両用涼風ファンとして培った当社の技術が、ダッグ



エースイングファン断面図



エースイングファン

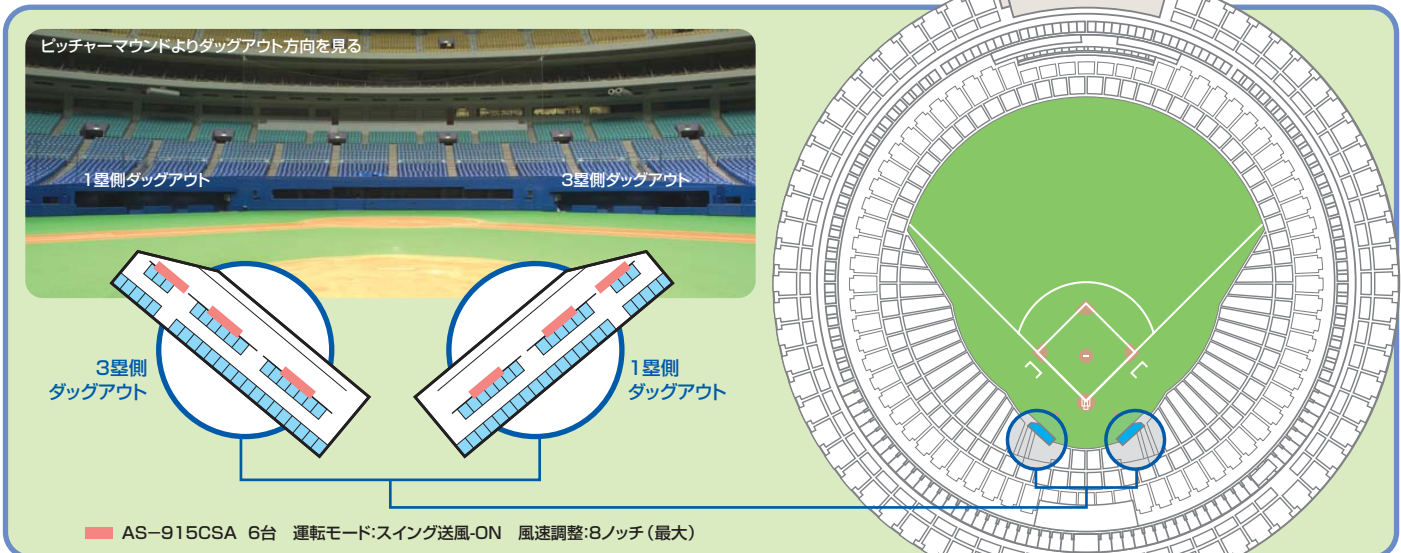
3塁側ダッグアウト

アウトの快適な空間維持に一役かっています。

胸のすくファインプレーや迫力あるバッティング、そしてチームの勝利を見えないところで支えているエースイングファン。「エースイングファンの気流による涼風効果は狙い通りだった」そう話す小松さんからは続けて、「これなら他の球場にも勧められるのでは」とのご提案も。

三菱の“気流”技術がお届けする心地よい風は、これからも白熱するプロ野球をさらに面白くしていきます。

ナゴヤドーム エースイングファン配置図



N A G O Y A D O M E

機種名	台数
エースイングファン本体: AS-915CSA (単相100V)	6台
リモコンスイッチ: FS-02ASR	6台

ご採用データ

〈ダッグアウト部分〉●床面積:3m×12m=36m²×2か所 〈アリーナ全体〉●容積:1,700,000m³ ●冷房能力:17,053kW ●収容人数: 40,500人(野球時最大)

